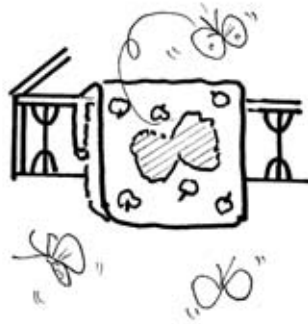


みんなの童話

やったね、ばんざーい



またやつちゃったー

なまあたたかくて、じとつとじとあのかんじがしたら、もうておくれ。ぼくは、きょうも、おねしよをしてしまいました。そつと二かいからおりて、だいどころのお母さんのまえにいきました。

「あつ、また？」

「ごめんね」

「いいわ。出るものはしかたないもの。お天気がいいからほしくね。早くきがえていらしゃい。かぜひくよ」

お母さんは、なぜかぼくのおねしよをしかりません。

四月には、一年生だというのに

いつまでも……と、じぶんでもおもいます。

いちど、そのことでお母さんと

おいしやさんにいきました。

* ねるまえに水をのまない

* トイレにいつてからねる

* ひるのあいだ、よくあそぶ

おいしやさんとぼくは、やくそ

くしました。やくそくは、ちゃん

とまもっています。でも、なかな

かおねしよがなおりません。

「うくん、ちゅつとおいで。お

もしろいよ、きょうのおねしよ」

ペランダから、お母さんのこえ

がきこえました。

「お母さん、大きな声で、おね

しよっていわないで！」

「そつ、そつだったわね。うふふ

ごめんごめん。でも、みてらん

このかたち。なにかにみえるで

しょ

ぼくは、はずかしいからおね

しよのかたちなんかみたことない。

お母さんがいうので、ほしてあるふとんをみました。

「あつ、パンダ！」

「ねつ、おふとんのもよう」と、こ

うくんのおねしよががったいして、

パンダのおおになったのね

わらっているお母さんのおおを

みて、ぼくはすこしげんきがでま

した。

「ねえ、うくん、こんどからお

ねしよのかたちよくみてらん。

いろんなかたちがあるよ、きつと

……。ふふふ」

お母さんは、またわらいながら、

シャツやパジャマをせんたくきの

中にいれました。

さむい日のあさは、やつぱりお

ねしよです。おねしよのかたちは、

くまやぶた、パンダなど、だいた

いどうぶつのかたちに見えました。

でも、ぼくは、お母さんみたいに

わらえませぬ。

なんとかして一年生になるまで

におねしよがなおりますように

……。と、ねるまえにおいのりする

ことにしました。

三月も、のこりすくないあるあ

さ、

「お母さんきて！ きょうのおね

しよはいままでとちゅつとちがう

よ。ほらっ！」

いそいでぼくのへやにきたお母

さんは、

「まあ。ちようちよ。はるなのね

え」

と、いいました。

その日のよる、ぼくのへやは、

いつもとちがうかんじがしました。

「わあつ、あたらしいふとん。お

母さん、ぼくのふとんかえてくれ

たの」

「そつよ。はるがきて、ちゅつちよ

がとんだからね！」

お母さんは、にこにこしました。

あたらしいふとんは、たんぼほ

の花がらです。ふんわりとあつた

かく、いいにおいがします。

つぎのあさ、ぼくのふとんには、

あの大きなパンダもちようちよも

いませんでした。

やったね、ばんざーい

やったね、もうすぐ一年生！

しろうやまの会員 ふじいのぶい